

島根県における主要水産資源に関する資源管理調査

(資源管理調査業務委託事業)

向井哲也・沖野 晃

1. 研究目的

島根県における主要水産資源の合理的・持続的利用を図るため、県内における漁業種類別・魚種別の漁獲動向を把握する。さらに、試験操業によって島根県沖合海域における底魚・浮魚資源の状況を把握し、資源管理手法開発の基礎資料とする。

2. 研究方法

(1) 漁獲動向の把握

漁獲管理情報処理システムにより漁業協同組合 J F しまねと海士町漁業協同組合に水揚げされる漁獲データを収集・集計した。

また、2004 年に開発した漁獲管理情報処理システムは、当該プログラムのサポート終了のため下記の改良を実施した。

- ・主要プログラムについて、プログラミング言語を VB6.0 から VB. Net へ変更した。
- ・漁獲管理情報処理システムのオペレーティングシステムを Windwos Server 2003 から Windows Server 2012R2 へと更新した。

(2) 資源状況調査

島根県沖合海域における底魚の資源管理手法開発の基礎資料とするため、試験船島根丸を用いて平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月にかけて、トロール試験操業を 4 航海実施し、主要底魚類の分布や体長組成等の資源状況を調査した。また、マイワシ仔魚の発生状況を調べるため、平成 27 年 3 月に試験船島根丸によるニューストーンネットを用いたマイワシ仔魚の採集調査を実施した。

(3) 浮魚情報の提供

島根丸による各種調査において航行中に湿式魚群探知機（古野電気 FE-1282、88kHz）を作動させ、魚群の情報を収集した。

3. 研究結果

(1) 漁獲動向の把握

漁獲動向については島根県における主要漁業の毎月の漁獲状況について集計し、島根県資源管理協議会へ報告した。

(2) 資源状況調査

島根丸によるトロール調査では、マダイ、キダイ、ソウハチ、ムシガレイ、ヒレグロ、ウマヅラハギ、アンコウなどの底魚類が漁獲された。マイワシ仔魚の調査結果については（独）水産総合研究センターにサンプルの分析を依頼中である。

(3) 浮魚情報の提供

島根丸の航行中に得た魚群探知機の反応について、まき網漁業者 14 経営体に対して計 11 回 FAX による情報提供を行った。

4. 研究成果

- 調査で得られた結果は、島根県資源管理協議会へ報告され、漁業者が実施する資源管理の取り組みに利用されている。